

令和 5 年 5 月 5 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00326

研究課題名(和文) 人形浄瑠璃における近代以降の伝承の中絶とその復元に関する重点的研究

研究課題名(英文) The focused study on the interruption and restoration of traditions in Joruri Puppet Theater after the Meiji era

研究代表者

久堀 裕朗 (Kubori, Hiroaki)

大阪公立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：50335402

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、人形浄瑠璃において、多くの伝承が中絶した近代以降(特に明治末～昭和初期)の時期に焦点を当て、この期間に中絶した伝承(文楽座内の伝承・非文楽系劇団の伝承・淡路座の伝承)をいくつかの資料(浄瑠璃本・劇評記事 雑誌『浄瑠璃雑誌』所収の劇評・道具帳 御霊文楽座道具帳)をもとに掘り起こし、その一部を実演で復活させ、人形浄瑠璃という芸能の多様性の回復をはかることを目指したものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、人形浄瑠璃(文楽)において近代以降(特に明治末～昭和初期)に中絶した伝承の掘り起こしと、その部分的な復元を中心的な課題としているが、こうした取り組みは伝承が途絶えてしまった演目や演出を復活させるための基礎になる作業である。実際に本研究では、復曲試演会を開催して、研究成果を活かした実践的な取り組みを行っている。机上の文献研究にとどまらず、演目復元の実践活動を伴っている点に、特に本研究の学術的意義や社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the period after many traditions were interrupted in Joruri Puppet Theater, particularly from the end of the Meiji era to the beginning of the Showa era, and aims to revive some of the interrupted traditions (including those in Bunraku Theater, non-Bunraku Theater troupes, and Awaji puppet theater troupes) based on several materials (Joruri scripts, reviews of plays collected in the magazine "Joruri Zasshi," and design drawings for stage sets from the Goryo Bunraku Theater), and restore the diversity of Joruri Puppet Theater performances.

研究分野：日本近世文学

キーワード：人形浄瑠璃 文楽 淡路人形浄瑠璃 義太夫節 日本近世文学

## 1. 研究開始当初の背景

人形浄瑠璃は近世初頭に成立した日本の伝統芸能の一つであるが、17世紀末に竹本義太夫が創始した義太夫節による人形浄瑠璃が18世紀以降隆盛を極め、それが今日まで伝えられた。現在は「文楽」として、公益財団法人文楽協会(劇団)・独立行政法人日本芸術文化振興会(劇場)による運営のもと、国立文楽劇場(大阪)・国立劇場小劇場(東京)で定期公演が行われている。2003年には、日本を代表する伝統芸能として、「人形浄瑠璃文楽」がユネスコの無形文化遺産にも指定された。

しかしその伝承は、ある意味で非常に危うい状況にある。もとは座名であった「文楽」が芸能全体を指す名称になっていることからわかるように、大正時代末からは文楽座という一劇団だけで芸が継承されるようになり、他の座に伝承されていた芸や演出の多くが失われていった。その上、第二次世界大戦後は素人の愛好者が激減して、プロを生み出していく裾野を失い、完全に文楽座単独で芸が継承される(技芸員も主に研修生制度によって養成される)ようになった。その結果、現状では、時を経るごとに芸の多様性が失われる傾向にあると言える。

申請者は、これまでにいくつかの科研費の課題に取り組む中で、従来の人形浄瑠璃史研究において等閑視されてきた淡路島の人形座(近世から近代にかけて、大阪初演の作品を携えて全国を巡業したプロの人形浄瑠璃劇団。以下、淡路座と略称)を取り上げ、その資料(浄瑠璃本・興行記録)を整理するとともに、淡路座と大坂浄瑠璃界との関係を考察してきた。その過程で、現行の文楽の舞台を相対的に見ることによって、上記の問題(現行文楽における多様性の喪失)を痛感するに至った。また、そうした問題意識のもとに、科研費課題「人形浄瑠璃の上演本文・舞台演出の変遷に関する研究」(2015~2018年度、基盤研究C)に取り組む中で、この問題について考えるに当たっては、近代(特に明治末~昭和初期)に焦点を当て、この期間に中絶した伝承(上演方法の変化などによって文楽座内で中絶した伝承/大正期に中絶したいわゆる非文楽系劇団彦六座・近松座等、座名・場所を変えながら大正まで続いた文楽座以外の系統の劇団。彦六系とも称する)の伝承/昭和になって中絶した淡路座の伝承)を解明することが、最も重要な課題であると考えに至った(「廃絶」ではなく、「中絶」という語を用いるのは、自然淘汰により価値の低いものが途絶えたのではなく、主に外的な要因により、その価値とは無関係に途絶えたものと捉えるからである)。そこで、この時期に中絶した伝承(太夫・三味線・人形の芸。舞台演出等)を、いくつかの資料(浄瑠璃本 鶴澤友路旧蔵浄瑠璃本・劇評記事 雑誌『浄瑠璃雑誌』所収の劇評・道具帳 御霊文楽座道具帳)をもとに掘り起こしたいと考えた次第である。

## 2. 研究の目的

本研究では上記の問題意識のもと、近代以降(特に明治末~昭和初期)に中絶した伝承を解明することを目的とし、具体的には以下の4点に取り組み、それぞれにおいて成果を挙げることを目指した。(題目を「重点的研究」としたのは、研究期間内に着実に成果を挙げるため、重点的に取り組む課題を以下の~のように設定し、それぞれ調査の対象とする資料を、次の(3)に述べるように絞り込んだからである。)

- ・浄瑠璃本の調査による非文楽系の「中絶した伝承」(上演本文・曲)の発掘
- ・劇評記事の調査による「中絶した伝承」(舞台演出)の発掘
- ・道具帳の調査による「中絶した伝承」(舞台装置)の発掘
- ・「中絶した伝承」(~により見出したもの)復活の試行

以上、~がそれぞれ具体的な資料(後述)に基づく文献学的研究で、~がその成果を用いた実践研究(演者と協力して取り組む浄瑠璃の復曲、人形浄瑠璃復活上演の試行)という位置づけである。~と~を組み合わせ、机上の文献研究にとどまらず、演目復元の実践活動を伴っている点に本研究の特徴がある。

## 3. 研究の方法

「2. 研究の目的」に記した~について、具体的には次のように研究を進める。

### 【 . 浄瑠璃本の調査 「鶴澤友路旧蔵浄瑠璃本」の整理・分析】

非文楽系の伝承を発掘するために、南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館に寄託された新出のコレクション「鶴澤友路旧蔵浄瑠璃本」を整理・分析する。故鶴澤友路(1913~2016)師は、人間国宝にも認定された女流義太夫三味線の第一人者である。友路師は、文楽三味線の名人6代鶴澤友次郎(1874~1951)に師事し、友次郎没後は6代鶴澤寛治(1887~1974、人間国宝)にも師事した。今回寄託された旧蔵の浄瑠璃本は、約1100冊の一大コレクションであるが、そのほとん

どに朱譜(三味線の楽譜)が書き入れられている点が貴重であり、しかもその中には非文楽系三味線奏者(豊澤小團二、龍助、龍市など)の旧蔵朱入り浄瑠璃本が多く(当初の見積もりでも100冊以上)含まれている。非文楽系の朱入り浄瑠璃本と言うと、早稲田大学演劇博物館に収蔵されている2代豊澤新左衛門のコレクション(全297冊。『二世豊澤新左衛門朱入り浄瑠璃本目録』1984年刊)が知られるが、その他には公共機関にまとまった形での所蔵がない。従って、今回新出した資料は、そういう意味でも、極めて希少、貴重なものなのである。また友路師は非文楽系の芸を継承する6代寛治の稽古も受けており、友路師自身が朱を書き入れた浄瑠璃本も本研究の分析対象となる。以上のことから、この「鶴澤友路旧蔵浄瑠璃本」を調査・分析し、非文楽系の「中絶した伝承」(上演本文・曲)を確認することを、本研究課題の一つの柱とする。

#### 【 ．劇評記事の調査 雑誌『浄瑠璃雑誌』に収録される劇評記事の抽出・分析】

雑誌『浪花名物 浄瑠璃雑誌』は、明治32年2月に創刊され、昭和20年2月に終刊した義太夫愛好者向け専門雑誌(全425号)である。そこに収められる各種記事は、この時期の浄瑠璃界の動向について確認する際に有用であるが、とりわけ劇評記事は、現行文楽とは異なる舞台演出(文楽・非文楽双方)を知る上で、たいへん貴重な情報源となる。しかも、刊行期間が本研究課題において注目する「明治末～昭和初期」にぴったりと重なっている。そこで、『浄瑠璃雑誌』の劇評記事をすべて抽出した資料集(劇評集成)を作成するとともに、その内容を適宜別資料も参照しながら分析することによって、この期間に「中絶した伝承」について検討することとする。

#### 【 ．道具帳の調査 御霊文楽座道具帳の分析/現行文楽の大道具との比較】

明治期の御霊文楽座の道具帳は、いわゆる大新(大道具の棟梁新吉)道具帳として知られ、『義太夫年表明治篇』に図版が掲載されている(原本のうち吉永孝雄氏旧蔵分は現在国立文楽劇場所蔵)。本資料を用いて、舞台大道具に関しても、現行文楽とは異なる要素を網羅的に抽出し、検討を加えたい。併せて、上記の作業から断片的に明らかになる非文楽系の大道具との違いについても考察し、舞台装置の面においても「中絶した伝承」を発掘する。

#### 【 ．「中絶した伝承」(～により見出したもの)復活の試行】

上記～の作業で明らかになった研究成果を活かし、復曲や復活上演で「中絶した伝承」を一部復活させる。

以上～について、資料を限定して、重点的に取り組むことにより、着実に成果を積み重ねることを目指し、～についても復曲試演会等の開催を計画する。

## 4. 研究成果

「3. 研究の方法」に記載した～について、それぞれ以下の研究成果を得た。

#### 【 ．浄瑠璃本の調査 「鶴澤友路旧蔵浄瑠璃本」の整理・分析】

本研究の一つの柱とした「鶴澤友路旧蔵浄瑠璃本」の整理に関しては、計画の通りに進め、2021年に『鶴澤友路旧蔵資料目録』を編集・刊行した(公益財団法人淡路人形協会編 全体的な編集は「編集にあたって」「あとがき」記載の通り久堀に拠る、淡路人形協会発行)。同目録所収の「鶴澤友路の生涯と浄瑠璃本」において、同コレクションの浄瑠璃本の価値について具体的に述べたが、その大半に朱(三味線譜)が記載されていることとともに、大阪の演者から譲られた本を大量に含むことが大きな特徴である。特に師の6代鶴澤友次郎から譲られた本に貴重なものが多く、5代豊澤広助から伝えられた三味線譜本や「かほよ歌かるた」などはとりわけ注目すべきものと言えよう。また初代豊澤小團二、2代豊澤龍助、初代豊澤龍市(3代龍助)の旧蔵本については、いずれも非文楽系の朱を残すという点で極めて価値が高く、当初からその冊数を100冊以上と見積もっていたが、調査の結果、三人分合わせて204冊にのぼることがわかった(同目録に旧蔵者ごとのリストを作成している)。一方、友路師自身の本については、淡路座系統の作品(『賤ヶ嶽七本槍』『奥州秀衡有鬘壻』『軍法富士見西行』)の床本も残っており、竹本君香を名乗っていた頃の友路師の活動を知る上で有用である。以上、一例を挙げるに留めるが、友路師のコレクションの全貌を明らかにしたことは、本研究の大きな成果である。

その他、浄瑠璃本調査に伴う成果としては、『碁太平記白石嘶』第六「浅草の段」の異本二種(解題と翻刻)、『文学史研究』第61号)を挙げることができる。同稿では、『碁太平記白石嘶』第六について、浄瑠璃正本(丸本)とは異なる本文を収録する抜本と、淡路座系の写本を翻刻・紹介した。

#### 【 ．劇評記事の調査 雑誌『浄瑠璃雑誌』に収録される劇評記事の抽出・分析】

雑誌『浄瑠璃雑誌』の調査については、京都教育大学名誉教授垣内幸夫氏より資料や情報の提供を受け、主に劇評記事の抽出・分析を進めた。その成果が『浄瑠璃雑誌』劇評集成(明治篇)』

である。まだその内容の分析をもとに独立した論文を執筆するに至っていないが、『浄瑠璃雑誌』の調査から得られた知見は、上記「鶴澤友路の生涯と浄瑠璃本」や「人形浄瑠璃・文楽と大阪」(『学術的大阪ガイド』昭和堂)などにも活かしている。後者においては、「文楽」がいつ頃「人形浄瑠璃」の代名詞になったのかについて、資料に基づき、通説より具体的に述べた。

#### 【 ．道具帳の調査 御霊文楽座道具帳の分析 / 現行文楽の大道具との比較】

御霊文楽座道具帳の調査については、文楽劇場以外の所蔵分について、一部所蔵先を明らかにしたが、未だ調査継続中で、この課題に関する独立した論文をまとめるには至らなかった。しかし道具帳や舞台に関する調査から得た知見を活かして、「道頓堀の人形浄瑠璃興行に関する覚え書き(二) 竹本座と金毘羅大芝居のことなど」(『文学史研究』第60号)を発表した。同稿では、竹本座と金毘羅大芝居(金丸座)との関係や、豊竹座の正確な位置(立慶町における区画)などを明らかにしている。

#### 【 ．「中絶した伝承」( ～ により見出したもの) 復活の試行】

コロナ禍にあって、「復活の試行」を計画することが困難であったが、最終年度の2023年2月4日に研究報告・復曲試演会「稀曲の継承『蛭小島武勇問答』」(会場：淡路人形座)を開催し、竹本友和嘉氏、鶴澤友勇氏の協力を得て、『蛭小島武勇問答』工藤祐経住家の段を復活演奏(素浄瑠璃)することができた。その成果は、本科研費の研究成果報告書『人形浄瑠璃における近代以降の伝承の中絶とその復元に関する重点的研究』(2023年3月)に、「『蛭小島武勇問答』三段目切(工藤祐経住家の段)復曲演奏に関する覚え書き」としてまとめた。同報告書所収「浄瑠璃正本『蛭小島武勇問答』三段目切(工藤祐経住家の段)本文と略注」(原作『蛭小島武勇問答』三段目切に注釈を付けたもの)も、これに関連する成果である。なお『蛭小島武勇問答』工藤祐経住家の段は、友和嘉・友勇のお二人によって、2023年7月17日、徳島の阿波十郎兵衛屋敷で再演されることが決まっている(とくしま文化・未来創造支援費補助金による助成)。

以上、 ～ に分けて成果を列挙したが、いずれか一つに区分しにくい成果として「人形浄瑠璃興行記録の整理状況 問題点と今後の展望」(『中国戯曲の世界 「戯曲、劇場と20世紀前半の東アジア演劇」学術シンポジウム論文集』花書院)や、「淡路の人形座」(『社会集団史』山川出版社)などもあり、上述の成果と合わせ、全体として当初の目的を達成することができたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 『蛭小島武勇問答』三段目切（工藤祐経住家の段）復曲演奏に関する覚え書き	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科研費研究成果報告書『人形浄瑠璃における近代以降の伝承の中絶とその復元に関する重点的研究』	6. 最初と最後の頁 1 - 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 浄瑠璃正本『蛭小島武勇問答』三段目切（工藤祐経住家の段）本文と略注	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科研費研究成果報告書『人形浄瑠璃における近代以降の伝承の中絶とその復元に関する重点的研究』	6. 最初と最後の頁 19 - 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久堀裕朗（編）	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 『浄瑠璃雑誌』劇評集成（明治篇）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科研費研究成果報告書『人形浄瑠璃における近代以降の伝承の中絶とその復元に関する重点的研究』	6. 最初と最後の頁 35 - 243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 淡路の人形座	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『社会集団史』（山川出版社）	6. 最初と最後の頁 114 - 128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 人形浄瑠璃・文楽と大阪	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『大学的大阪ガイド』（昭和堂）	6. 最初と最後の頁 309 - 324
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 鶴澤友路の生涯と浄瑠璃本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『鶴澤友路旧蔵資料目録』（公益財団法人淡路人形協会）	6. 最初と最後の頁 121-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 人形浄瑠璃興行記録の整理状況 問題点と今後の課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中国戯単の世界 「戯単、劇場と20世紀前半の東アジア演劇」 学術シンポジウム論文集 』（花書院）	6. 最初と最後の頁 257-270
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 61号
2. 論文標題 『碁太平記白石噺』第六「浅草の段」の異本二種（解題と翻刻）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文学史研究	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24544/ocu.20210330-001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 60号
2. 論文標題 道頓堀の人形浄瑠璃興行に関する覚え書き(二) 竹本座と金毘羅大芝居のことなど	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文学史研究	6. 最初と最後の頁 16-37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24544/ocu.20200525-003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 久堀裕朗
2. 発表標題 『蛭小島武勇問答』の伝承
3. 学会等名 研究報告・復曲試演会「稀曲の継承『蛭小島武勇問答』」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 久堀裕朗
2. 発表標題 人形浄瑠璃興行記録の整理状況 問題点と今後の展望
3. 学会等名 「戯単、劇場と20世紀前半の東アジア演劇」学術シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 公益財団法人淡路人形協会編(全体的な編集は「編集にあたって」「あとがき」記載の通り久堀に拠る)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 公益財団法人淡路人形協会発行	5. 総ページ数 181
3. 書名 『鶴澤友路旧蔵資料目録』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	垣内 幸夫  (Kakiuchi Yukio)	京都教育大学・名誉教授	『浄瑠璃雑誌』に関する資料・情報の提供
研究協力者	竹本 友和嘉  (Takemoto Tomowaka)	太夫(義太夫節浄瑠璃)	浄瑠璃の復曲・演奏に関する協力
研究協力者	鶴澤 友勇  (Tsuruzawa Tomoyuu)	三味線(義太夫節浄瑠璃)	浄瑠璃の復曲・演奏に関する協力

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関